

令和5年度 学校総合評価

6 今年度の重点課題に対する総合評価

本校での現状を踏まえ、2項目の重点課題を設定して取り組んだ。各重点項目の目標についてはおおむね達成することができた。取組の概要と評価は下記のとおりである。

(1) 生徒が自分の役割に気付き主体的に取り組むための指導・支援の在り方

昨年度までは、キャリア・パスポートの活用を通してなりたい自分を思い描き、目標に向けて活動し、その振り返りの中で自分を見つめ直す姿勢を育むことができた。しかし、自分の良さや強みに気付いてそれを伸ばそうとする姿が見られないことから、今年度は生徒自身が自己評価や他者評価を通して、自分の頑張りや良さに気付くことができるための支援はどうあるべきかを重点課題とした。取組としては、行事をとらえて目標設定や振り返りを行い、教師が毎時間アドバイスを رفتり、書くことが苦手な生徒に対しては、画像や動画を活用し思い出して書けるようにしたりなど、配慮を行った。また、生徒が発言したことを板書し、言葉をつなげて文章にするなどの支援も行った。教師の場面設定や言葉掛けについては、学部内で事例検討を行い支援の方法や変容について共通理解を図った。

(2) 保護者のニーズに応じた情報提供

保護者の要望や知りたいことを調査し、今後の情報提供に生かしていきたいと考え、情報発信するシステムの構築と周知を重点課題とした。情報発信は今まで紙媒体で配布していたが、保護者の手元に届かない場合もあったため、保護者が全員加入している「安心安全メールシステム」を活用することとした。また、調査は「Microsoft forms」を用いて行い、結果や情報提供は「学校ホームページ」を活用して行った。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1) 書くことが苦手な生徒も教師のいろいろな支援から、自分で思ったことを書くことができるようになったり、考えを整理し言葉で表現したりできるようになってきた。今後も生徒の思いを引き出しながら、それに合う言葉に結び付けていく支援を継続していきたい。

(2) 実施時期が6月から12月と短く、その期間の中で何度も配信を行ったため、閲覧状況確認への返答数は次第に減っていった。しかし、閲覧した保護者の満足度は非常に高いという結果だった。今後は、「安心安全メールシステム」での配信について保護者に周知したり、学校ホームページを閲覧しやすいものに工夫したりするなど、保護者に届けたいものが確実に届く方法を構築することで、保護者のニーズに応じた情報提供につなげていきたい。

(様式5)

8 学校アクションプラン

令和5年度 富山聴覚総合支援学校アクションプラン (中学部) - 1 -		
重点項目	学習活動	
重点課題	生徒が自分の役割に気付き主体的に取り組むための指導・支援の在り方	
現 状	昨年度までの学部研究の取組では、なりたい自分を思い描き、具体的な行動目標を立てて実践したり、振り返りの活動において自分を見つめ直したりする姿勢を育むことができた。一方で、自分の良さや強みに気付いてそれを伸ばそうとする姿、他者とのかかわりの中で自分の学びを継続しようとする姿にはまだ及ばないという課題が挙げられた。そこで、キャリア・パスポートの使用と活用を通して、肯定的な自己理解につながるような教師の言葉掛けや場面設定があれば、自分の役割に気付いて主体的に取り組む、様々な課題にたくましく対応していける生徒を育むことができるのではないかと考えた。	
達成目標	①キャリア・パスポートを用いて、行事をとらえて目標設定や振り返りを行う回数	②教師の言葉掛けや場面設定について事例検討等を行う回数
	年間4回以上	年間3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none">・生徒が記入しやすいようなキャリア・パスポートになるよう様式や内容について検討する。・行事での事前の目標設定や事後における生徒の自己評価や他者からの評価を通して、自分の頑張りが良さに気付くことができるよう、キャリア・パスポートを書く時間を確保する。	<ul style="list-style-type: none">・部会研究において、キャリア教育の4領域についての場面で支援していくかを明確にし、支援の方法や生徒の変容について共通理解を図る。・キャリア・パスポートを基に、教師間で生徒についての情報を共有するとともに、授業を記録するなどして支援方法について検討する。
達成度	8回実施 (見込み)	5回実施 (100%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none">・新入生歓迎会、体育大会等行事の目標設定から振り返りを行った。さらに、定期考査に向けて勉強時間や取り組み方等についても書く機会を設けた。教師が教科毎に勉強の仕方を提示したり、アドバイスしたりした。・キャリア・パスポートを書く時間を確保するだけでなく、書くことが苦手な生徒に対しては、行事の画像や動画を見て思い出して書くことができるようにしたり、生徒が発言したことを板書し、板書の言葉につなげて文章にしたりして支援を行った。	<ul style="list-style-type: none">・部会研究では、キャリア教育の4領域については、「自己理解、自己管理能力」と「キャリアプランニング能力」に重点を置くことを共通理解した。・キャリア・パスポートを用いた発表の機会から教師間でどのような支援ができるか、検討し、音声認識アプリ等のICT機器を使うだけでなく、教師がやりとりを整理して板書する方法も授業に取り入れた。板書の仕方については、外部講師から助言をいただき、改善点を共有した。
評 価	A	①A ②B ※2項目の達成度から総合評価を判断
学校関係者の意見	キャリア・パスポートの取組は生徒の成長が分かりとても良い。特に生徒同士の話し合いの場面は、ビジネスやスポーツの意思決定と実行のための思考法である「OODAループ」と同じである。どの学部でも実施して欲しい。キャリア・パスポート、キャリアスキルチェック表の2つを合わせて成長の取組を示せたら良いのではないかな。	
次年度へ向けての課題	書くことが苦手な生徒も、面倒がらずに自分の言葉で思ったことを書くようになってきた。言葉で表現することで、考えを整理する様子がみられる。今後も教師が生徒の思いを引き出しながら、それに合う言葉に結び付けていく支援は継続する必要がある。さまざまな実態の生徒に合った支援方法を見つけていくことが今後の課題である。	

(評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった)

重点項目	その他	
重点課題	保護者のニーズに応じた情報提供	
現 状	<p>本校は、教育活動に関して学校だよりや分掌からの情報発信を紙媒体や学校ホームページを活用し積極的に行っている。学期ごとの個別懇談や日々の連絡ノート、送迎時の会話等でも保護者の声を聴くことができる。しかしその一方で、様々な年齢段階の幼児児童生徒が在籍していることや、聴覚障害だけでなく知的障害の生徒も在籍するため、保護者のニーズが多岐にわたっている。また、学校ホームページを閲覧していない保護者もいるため、情報が伝わりにくい現状もある。そこで、関係分掌等の担当者が情報提供できるシステムを構築し、様々な情報を発信することで、保護者のニーズに応じた情報を提供することができるのではないかと考えた。</p>	
達成目標	① 保護者のニーズを把握し、情報発信するシステムの構築と周知	② 発信した情報の認知度や満足度を確認する回数
	1学期中の構築・周知	年間3回以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・図書・情報部と協力し、インターネットを利用したアンケートシステムを構築する。 ・様々な機会を通して学校ホームページに情報提供があることを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のニーズを把握し、関係分掌等から情報収集し、学校ホームページ等で発信する。 ・発信した情報が周知されたか把握したり、発信した情報がニーズに合ったものであったか意見を集約したりする。
達成度	5月に周知(100%)	3回実施(100%)
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ・5月中旬に Microsoft Forms を利用したアンケートシステムを作成・試行。 ・5月下旬に保護者案内を配布して周知。 ・1学期末のPTA定例会や、安心・安全メールでアンケートへの回答を配信するときの計4回、ホームページに情報提供があることを連絡。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6月、9月、11月の3回、アンケートを実施。 ・7月、10月、12月の3回、ホームページに情報を掲載。 ・9月、11月、12月の3回、学校からの回答(情報提供)についての認知度と満足度を確認。
評 価	A	A ② A ※2項目の達成度から総合評価を判断
学校関係者の意見	<p>きめ細かな個別のニーズに寄り添った対応を続けるのは、信頼関係につながる。保護者や子供が困っているときに頼れる存在になって欲しい。メールの閲覧状況や情報提供の認知度に関しては、どのようにしたら保護者に情報が伝わるか、その方法を考えてみると良い。メールを苦手としている保護者は、紙媒体の資料の方を好むかもしれない。また、保護者が聴覚障害者である場合は、手話動画が効果的かもしれない。さらに、画像や動画を配信することも方法の一つだと思う。どのような方法が良いのかを保護者に確認し、改めて情報を伝えてみると現在の周知率より高くなるのではないかと。</p>	
次年度へ向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> ・実施時期の間隔が狭かったので、各学期に1回程度の実施に変更したい。 ・閲覧状況確認への返答数が次第に減り、情報提供の認知度はその半数程度だったが、実際に閲覧した人の満足度は高かった。配信メールが増える中で、関心をもってもらう工夫が必要となる。 ・個別対応が求められるような質問があったので、質問の仕方を工夫していきたい。 	

(評価基準 A:達成した B:ほぼ達成した C:現状維持 D:現状より悪くなった)